

海外研修を通して学んだこと

門川中学校 三年 木村 ほの花

私は八月六日から十五日の十日間、海外研修派遣事業に参加しました。

門川中の三年生十名が参加し、八日間それぞれの家庭にホームステイをしながら、平日は全員バターソソリバー・セカンドリーカレッジという学校に通い、午前中は英語の発音の仕方を教わる授業やフットボール、クリケットの授業など様々な体験をし、午後からは学校で一緒に過ごしたバディのクラスでそれぞれ授業を受けました。休日はホストファミリーと過ごし、観光地やショッピングモールに連れていってもらいました。八日目は遠足で動物園に行き、初めてコアラやワラビーとふれあうことができ、オーストラリアンガーデンという伝統的な植物がたくさんある有名な観光地にも行くことができました。海外に行くことは初めてで出発する前は不安で一杯でしたが、たくさん新しい出会いがあり、自分自身を大きく成長させることのできた十日間でした。そこで、実際にオーストラリアで生活したことでは気づくことのできなかつた日本や門川町の良いところや、オーストラリアとの様々な違いを発見することができました。

最も日本の文化と違いを感じたのは学校生活でした。オーストラリアの学校では、授業中に自分のパソコンやスマートフォンで調べ物をしている生徒を多く見かけました。他にも、学校ではずっと土足で、体育館も他のシューズにはきかえたりしなかったのでも驚きました。そして私が一番驚いたことは二時間目終了の休み時間に「リセス」と呼ばれる時間があり、その時間は全員外に出てそれぞれの家庭で用意された果物やおかしなどを食べ

ていたことです。私もホストマザーが毎朝リセスのおかしを用意してくれて毎日持つて行きました。短い時間ですが、リフレッシュできるのでいいなと思いました。学校のトイレは全て屋外に設置されており、私達が行ったのはちようど冬の時期だったのでとても寒くて不便でした。ですので日本のようにトイレは屋内にある方がいいと思いました。私達の行った学校は中学校と高校が一緒だったので、全校生徒は門川中の二倍以上の約千二百人も居たので最初は圧倒されていましたが、みんなとても親切で私達にたくさん話しかけてくれたので、すぐに慣れることができました。私達もそうでしたが、日本人はオーストラリアの人達に比べて、外国人の方と初めてあった時に自分から積極的にコミュニケーションをとりに行くという場面は少ないと思います。オーストラリアの学校で過ごし、やっぱり自分から話しかけることや自分の意思を相手に伝えることが必要だと改めて実感することができました。

ホストファミリーと一緒に生活する中でも、話すことはとても大切でした。何をすればいいか、これはどういう物なのかなど自分から聞かないと何も分からないまま、初日は日本語が一切使えない環境に慣れることができず、パニックになってしまったことが多かったです。だんだん生活に慣れていき、私は思っていることを文章にすることができない時は、知ってる単語をつなげたり、身振り手振りでなんとか伝えることができました。初めは話しかけることにも勇気が必要だったのが、だんだん会話が増え日本のことを教えたり、写真を使いながら家族のことや自分自身の話などたくさんのお話をしたりすることができました。言葉が伝わらなくても話を通じ合い、一緒に楽しむことができたことが私にとって一番嬉しかったことであり、実際に経験したからこそ分か

ったことだと思えます。これからますますグローバル化が進んで行きます。来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本に来る外国人の方が、急激に増加すると思えます。それにより様々な国の方達との交流も増え、これから大人になり社会に出る私達には英語が必要不可欠となっていきます。私ももつと英語を身につけ、コミュニケーション力をつけていくことが必要だなと思えました。

他にもオーストラリアと日本や門川町で違ったことは、掃除に対する意識の違いです。日本の学校は自分達で掃除をすることが当たり前ですが、オーストラリアの学校にある間は、生徒が掃除をしている姿を見かけることは一度もありませんでした。自分達ではなく、業者の方が掃除をするので、リセスやランチタイムには、りんごのしんやおかしのゴミなどを平気で捨てている生徒を多く見かけました。特に売店は外にあり、みんなその周りで食べていたので、売店周辺にはゴミが散乱していました。他にも教室に水をこぼしたり、おかしのくずが落ちていても掃除をする姿は一切なく、とても驚きました。自分達で掃除をする、掃除への意識の高い日本は自分の物に加え、誰が捨てたかも分からないゴミまで拾っている光景をよく目にします。だからこそいつもゴミがなく勉強しやすい環境で授業に取り組むことのできる日本はとても良いなど改めて実感しました。

他にも物価の違いや家の中での生活の仕方、買い物の仕方、道路のつくり、宗教など日本との違いは数えきれないほどあり、毎日新しい発見ばかりで今まで知らなかったたくさんのことを学ぶことができました。

私の将来の夢は理学療法士です。理学療法士はリハビリを行う患者さんのコミュニケーションがかかせない仕事です。私はコ

ミュニケーション力を必要とし、人を助ける仕事に就きたいと思っていてオーストラリアで初めての環境の中で違う言語の方達と過ごしたことで、さらに人と話すことが好きになり理学療法士になりたいという気持ちも強くなりました。

私は海外研修派遣事業に参加し、様々なことを学ぶことができました。この事業に参加をしていなければこのような貴重な経験をすることはできなかったと思います。この経験を将来の夢の実現や、今後の生活の様々な場面に活かしていけるようこれからも頑張っていきたいと思えます。